

## 25年9月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 8月20日～ 9月10日
2. 調査実施方法  
全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
9月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法  
各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
入荷動向	国産材製材品	25.0	41.7	41.7
	外材製材品	33.3	25.0	16.7
	その他	—	—	—
販売動向	国産材製材品	50.0	75.0	66.7
	外材製材品	25.0	33.3	25.0
	その他	—	—	—
在庫動向	国産材製材品	△ 8.3	△ 25.0	△ 16.7
	外材製材品	16.7	16.7	8.3
	その他	—	—	—

入荷動向は、国産材製材品、外材製材品ともにプラス基調で推移。  
販売動向は、国産材製材品、外材製材品ともにプラス基調で推移。  
在庫は、国産材製材品はマイナス基調で推移、外材はプラス基調で推移。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
スギ	柱角 KD10.5×3	33.3	41.7	33.3
	柱角 KD12×3	33.3	41.7	33.3
	通し柱 12×6	33.3	33.3	16.7
	桁角	8.3	8.3	8.3
	母屋角	8.3	8.3	8.3
	タルキ	16.7	8.3	8.3
	間柱	16.7	16.7	16.7
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	△ 8.3	△ 8.3
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	25.0	33.3	25.0
	柱角 KD12×3	25.0	25.0	16.7
	土台角 10.5×4	41.7	33.3	25.0
	土台角 12×4	33.3	25.0	16.7
	通し柱 12×6	8.3	8.3	8.3
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
米マツ平角	10.0	0.0	0.0	
米マツ割物	25.0	33.3	16.7	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	12.5	0.0	0.0	

スギの柱角及び通し柱は強含み、桁角、母屋角、タルキ及び間柱はやや強含みないし強保合、加工板及び平割は横ばい、ヌキはやや弱保合。  
ヒノキは、総じて強含みないし強保合。  
米マツ平割、北洋アカマツタルキは9月のプラスから10,11月は保合に、米マツ割物は強保合ないしやや強含み、北洋エゾマツタルキは横ばい。

モニターからのコメント

(荷動き)・荷動きは、プレカット工場活発で内地材需要増えそう、米マツ梁桁はメーカー直取引のため市場の入荷・販売には影響少ない。乾燥材主体に入出荷バランス悪くなり在庫やや減少しそう。価格動向は素材値上がりと安定入荷確保のためある程度上昇と予想。現状ではスギ、ヒノキともKD、AD材に需要が移行しているため現在の単価が続くと予想、グリーン材は安価な物件に限られてきている。・入荷動向は国産材は品薄、外材は物余り。販売は8月以降順調。名古屋はスギ製品は全般に需要少ない。

WW、エゾ主体。・スギ、ヒノキは時期的に造作材等の入荷少なく、並材は増加。外材も増加傾向。スギ、ヒノキ造作材の販売量増加、WWは安値材も出ているが売れている。スギ、ヒノキ造作材は元落ち、在庫は減少傾向、米加材、欧州材は港湾在庫増加し、供給過剰となっている。・スギ、ヒノキ、米マツ、北洋材とも9月に入り荷動き良くなった。プレカット主体の動きだが一般材木店も動き始めた。外材KDの動き良くなったがグリーンは動かない。荷動き良く在庫貯まらない。・スギ、ヒノキ、丸太不足で入荷少ない、10月以降まで影響あるか、販売は国産材は構造材横ばいながら強気配、外材はWWは安物あるようだが他は依然として高止まり。

(製品価格)・ヒノキ柱角(KD)、土台、通し柱は原木事情等により流通量減少でやや強い。側製品も同様。・スギ柱は高値安定、一部上級グレード売りにくい状況も。間柱は引き合い強い、構造材はグリーン、KDとも横ばい。スギヌキ、平割は供給多くやや下落傾向。ヒノキ柱は量産工場製品増え、安定入荷、販売されている。米マツ製品は為替の影響あるが不足感無くなっている。北洋アカマツタルキは輸入材増加傾向、価格横ばい、サンギは量が少ない状況。・スギは柱がプレカットからの注文増え不足気味で上昇、10.5角通柱不足、150~180幅のKD桁、90角母屋角、心去タルキ、野縁が品薄。ヒノキ土台はT社の9月単価あまり変わらず値上げは厳しいか。・ヒノキ、スギとも角類は品不足、KD多少値上げある。